



15 区 | 長 泥 行政区

地理

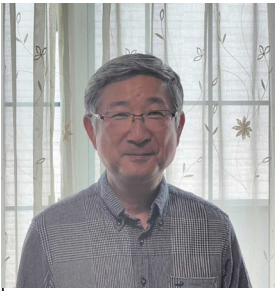


飯舘村の南端に位置する行政区である。前田・八和木行政区から国道399号線沿いに南下し、峠を越えた先に位置する地域で、飯舘村の合併前は現在の比叡行政区、蕨平行政区と共に比叡村を構成していた。比叡村の一角は山に囲まれているため、3つの行政区のまとまりが強い。長泥行政区は、行政区東部の曲田と中心部から西部にかけての長泥に分けられることもある。

文化・生活

村内での運動会などスポーツ関連の行事でも結束力が高かった。長泥行政区内でも10月に運動会を行っていた。長泥小学校があったため、大会に向けた練習をすることが盛んだった。他にも婦人会や青年会、消防団や子供育成会など地域内で様々な組織が活動していた。毎年、盆踊りは曲田と長泥の2か所で行われていた。

専業農家は三分の一ほどで、若い世代を中心に多くの方は、平日は原町や川俣など村外で勤務し、週末に農業を行う兼業農家が多かった。農業では米の他、乳牛や和牛の繁殖など酪農も盛んだった。また、関心のある人たちが部会を作り新しい品種に挑戦することも多く、ヤーコンやタラの芽、アスパラガスの栽培にも取り組んでいた。特にヤーコンは、事故前には焼酎やうどんに加工する生産体制を整えるところまで行きついており、その加



高橋正弘 行政区長

福島農蚕高校を卒業後、長泥に戻り、近所の土木業に40年以上従事している。20代から消防団や田植え踊りの復活など地域活動に深く関わっており、震災後は役員不足に直面しながら、女性代表枠の新設や各部の復旧などを行い、現在は区長として、行事の再開や後継者育成に尽力している。

行政区長の思い：

自由に出入りできるようになったので長泥復興に向けて住民一丸となって頑張っていきます。これを見たまみなさんもぜひ長泥を訪れてください。

工施設が長泥にあった。「花の里」として名高い地域であり、トルコギキョウの生産で有名だったほか、国道399号線沿いの桜並木とツツジ・アジサイも来る人の目を楽しませていた。

石材業も盛んであり、飯樋と比曽・長泥を隔てる戦山で取れる青葉御影の原石を加工していた。一時期は埼玉県や千葉県から注文を受けるまでになっていた。

震災後、長泥に住んでいた人たちはばらばらに避難することを余儀なくされた。長泥は鍵のかかったゲートによって閉ざされてしまった。長泥行政区は村内でも特に線量が高かったため、避難指示の一部解除が村内の他の地域と比較して遅れた。避難指示が一部解除されたのは2023年5月1日であった。村内の除染土のうち、放射線量が5,000ベクレル以下のものを用いて盛土して土地を均し、作土で覆土することで土地の造成を行っている。2025年5月時点で、造成の計画のある1工区～4工区のうち、4工区で造成が完了しており、2026年の試験を終えれば、農地として使えるようになるところもある。

行政区内に位置する白鳥神社では避難後も宮内行政区の綿津見神社の神主に来ていただき、例大祭を行っている。

コラム

【長泥の展望台と桜】

長泥の北部、九十九折の坂道の峠付近に、阿武隈高地を見渡す展望台がある。天気の良い日には、海まで見えるその光景はまさに壮観だ。展望台は2005年、金子行政区長時代に造られた。春には、桜を見ることができる。これは、長泥出身の初代村長高橋市平氏が、村長就任を記念して、自身で費用を寄付して植えたものだ。植樹には、地元の住民も参加したという。国道399号線を下った山の麓に咲き乱れる長泥の桜には、毎年各地から多くの観光客がその姿を一目見ようと訪れる。



▲ 展望台へ登る国道 399 号線に植えられた桜



▲ 環境省が運営する環境再生情報ひろば

店 事業所

震災前には、雑貨屋が2軒あり、プロパンガス卖っている人もいた。

また、仮枠大工もあったという。石屋は曲田に4軒あった。

震災の10年ほど前に、長泥小学校跡地の一部を使って営業していた工場の跡地に、ヤーコンの加工工場が作られ、操業していた。

人口

1983 年 421 人

1998 年 336 人

最新（2020 年） 2011 年 273 人

※ 2020 年は避難指示一部解除前のため正確なデータなし



▲ 昭和期の宝財踊りの様子

（高橋区長提供

もどれない故郷ながどろより）



▲ 盆踊りの様子（平成 20 年）

（高橋区長提供

もどれない故郷ながどろより）



▲ 長泥の展望台より東方を望む



▲ 長泥のコミュニティーセンター。長泥小学校の跡地に作られた